



教会報ほんじよ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
https://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

- 「雨月」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他



「雨月」

主任司祭 パウロ 豊島 治

六月のご挨拶を申し上げます。

復活節を終え、キリストの聖体そして年間の暦へと移ります。
東京教区は感染症に關しての一切の制限解除の通達を出されました。通達をうけて本所教会での対応も正副会長・評議会で話し合われました。本誌に別掲載しています。引き続き、お願いという形です。

およそ三年。振り返るとこの長い間、カトリック教会は実に多くの工夫をもって乗り越えてきました。関口での主日ミサ配信も今年の三月中旬まで行ってくださいましたし、週刊大司教の毎週配信も毎回千人以上が閲覧しています。教会活動がほぼできない中で私が関わった災害対応チームによる「オンラインパネルディスカッション」もSNSを使ったインターネット企画でした。

福者カルロ・アクティスをご存知でしょうか。一五歳で帰天した信徒で一九九一年生まれです。教皇さまは先月五月二十三日、列聖省長官とお会いになり、この福者の列聖に必要な教令の公布を認可されたとバチカンニュースが報道しました。以下彼の紹介です。

「カルロは英国生まれ、同月受洗。数年後イタリヤ・ミラノに引っ越す。家族は熱心な信者ではなかったが、子どものころから神に興味を示し、両親は少しずつ信仰を育てた。七歳で初聖体を志願し実現。凧揚げが好きで自然と動物を愛する、サッカーも楽しみみプレスで遊ぶ。コンピューターに長け、年齢よりも高度な技術をもっていた。しかし聖体の中のイエスを何よりも愛していた。カルロは毎日ミサに通い、ミサの前か後に聖体の前で礼拝していた。ノートには、「聖体は天国への高速道路である。私たちは二千年前にイエスと共に生きた使徒たちよりもラッキーである。イエスに会うために、教会に入るだけでオーケーだから！」「だからエルサレムは、すぐ隣にあるのだ。」しばしばゆるしの秘跡を受け言った。「気球で旅するには、重しを切り離す。靈魂も天に昇るために、重しを捨てる。つまり、小罪を取り除く必要がある。」毎日、聖母マリアにロザリオを唱えた。「マリア様は私の人生で唯一の女性です。」と。カルロは決して信仰を隠さなかった。友達を誘って、ミサに行き神の元に帰ろうとした。ノートには「悲しみとは自分自身に視線を向けること。幸福とは、視線を神に向けること。回心とは視線を下から上に移すこと。ただそれだけ。上(神)を見るだけで十分。」質素な生活をした。彼はコンピューター

ターの知識を宣教のために使うと決めた聖体の秘跡について三年の準備をしてネット展覧会をひらいた。「教会を批判することは自分自身を批判すること」が口癖。二〇〇六年白血病と診断。「病気の苦しみを神に捧げます。煉獄ではなくまっすぐ天国に行くため。」

教皇さまは勧告「キリストは生きている」のなかで彼を紹介しています。彼が作成した聖体に関するウェブはアメリカだけでも一万の教会で開催。ほかファティマ、ルルド、グアダラハラでも開催されたとあります。

今月はキリストの聖体からはじめる「イエスのみ心」の月。まっすぐに生きてゆけますように。



福者カルロ 関連動画